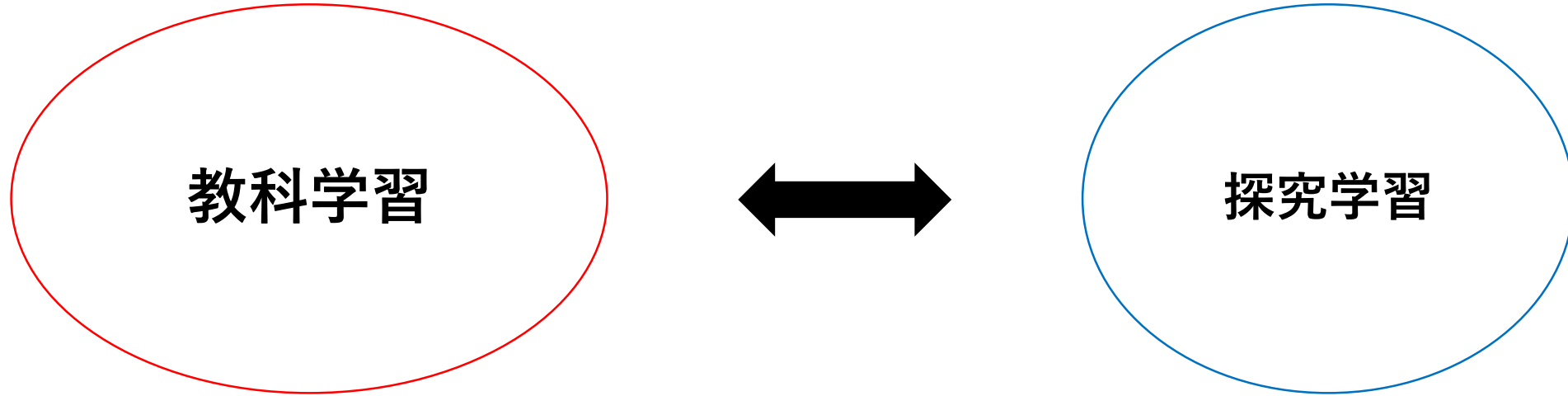


国際・社会探究Ⅰ ガイダンス

担当教員紹介

①なぜ「探究」をやるのか？

学校における2つの「学び」



各教科における学習

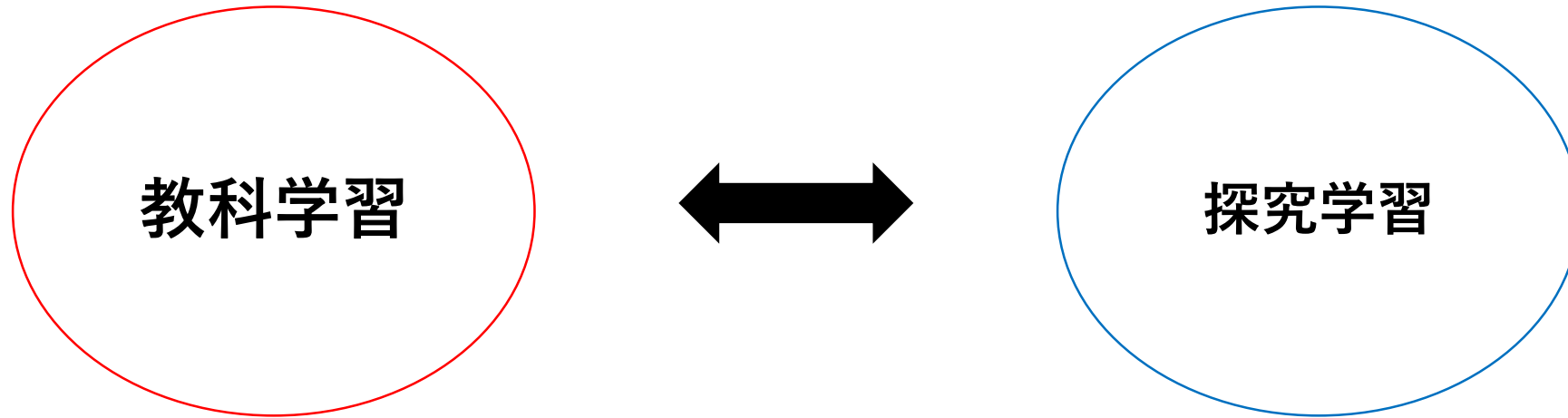
→自分で考える基礎となる知識・技能を
身に着ける（教科書・学校教材をベースに）

「探究」における学習

→実際の社会（地域社会）を題材にし、
自分で考えたいテーマ（課題）を設定し
解決策を考える。

①なぜ「探究」をやるのか？

- 学校における2つの「学び」



基本的に「正解」がある

与えられた問題に対して「正解」がある = 受験

→ 教科学習だけでは実際の社会に出たときに対応できない

自分で「課題」を設定し、それに対しての「解決策」を考える

→ **実際の社会を題材として決まった「正解」のない問題に取り組む**

「探究」と「探求」の違いは何か？

1. 探求：「正解」を探し求めたり、
手に入れようとする事
2. 探究：知識を得たり、物事の
本質や原因について深く
掘り下げること

②国際・社会探究の目標

③探究の質を高めるためのポイント

1. 探究サイクルを意識して深める

①RQをもつ



②課題を発見する

現状把握 1

なぜその課題に取り組むのかが言える！



③研究テーマを設定する

現状把握 2

なぜその解決策に取り組むのかが言える！



④課題の解決方法を
模索する



⑤仮説を設定する



⑦結果を分析・考察・
反省する



⑥仮説を検証する



2. 探究テーマの価値を高める

→ より深く、詳しく現状把握をし、そこから発見した課題ほどその課題に取り組む意義を説明することができる

→ この現状把握が自分たちの探究の「土台」になる

☆ 国際・社会探究では「社会的意義」も追求する！

3. テーマをできるだけ小さく絞る

研究の目的・対象（ターゲット）を絞ることで実現可能性を高める
さらに目標設定（数値で）することで目指す地点を明確化する

例) 「HSPの認知度向上」

→若狭高校2年生におけるHSPの認知度（＝聞いたこともあるし、その意味も知っている）を現状の20%から40%に向上させる

4. アクションだけでなく、その効果を測定する

△解決策の実行だけでは「自己満足」の探究になる

→自分がとった行動にどんな意味（質的）や効果（量的）があったのかを示せるような研究デザインを考える

例) 消費者教育チーム

→出前授業の前後に小テストを実施することで授業の効果を測定

手帳開発チーム

→手帳の新デザインのプロトタイプを作成し、アンケート調査から改善点や良かった点を見出す

先輩たちの事例の紹介

④探究テーマをどう設定したらよいか？

☆まずはRQ（リサーチクエスチョン）を立てることから！

→ どんな人でもいきなり「研究テーマ」は浮かばない

RQとは？

→ 自分の興味関心のある分野についての素朴な疑問や日頃抱く違和感・疑問、問題意識（なぜこうなのか？もっとこうなったらいいのに！）、不満、怒りなどから設定する

例)

なぜ歴史は好きだという人は多いのに、歴史授業が嫌いな人が多いのか？

なぜ小浜にはUターンしてくる人が少ないのか？

☆次にRQに関する情報を集める

～様々な方法～

- ・フィールドワーク
(アンケート調査、聞き取り調査、参与観察)
- ・学問分野における知見の参照
- ・先行研究 (研究界や先輩たちの取り組み)
- ・官公庁や世論調査などの既存のデータから

徹底的な
現状把握
が重要！



だんだんとこんなテーマでやると面白いかも？という見通しが持ててくる

まずはRQを考えてみよう！

すでに決まっている人は解決策や仮説を考えてみよう！